滿鐵調査資料第九編

「支那に於ける聚落(人口)分布の研究」

—山東省—

支那の人口現象に關する研究はその資料の蒐集に困難が多く、從來も幾多の文獻なしとしないが眞に信憑し得るかどうかの點になると直ちに首肯し難いのである。然したとへ障害があり、容易ならざる事業ではあるにしても、人口に關する研究の重要性は、特に現實の事態に於て要求されねばならない。今迄滿鐵調査部は調査資料に非常に秀れたものを發表して我々の利用に非常に便宜を與へてくれた。

本書は極めて短編ではあるが、その並々ならぬ苦心を窺ひ得ると共に我々にとつても亦極めて重寶な資料である。

山東省は他地方に比較して地理的區域としても纒りをもつてゐるので、これと人口分布とが何等かの關係があるかと云ふ問題は誰しも一應の關心を持つ處であり、特に支那に於ては人口密度の高い地方に屬し、移民の給源地として政治的經濟的意味からも重要性を帶びるものと考へられる。

資料としては滿鐵庶務部調査課より大正十四年に出版された山東省詳密圖と山東陸軍測量總務局より民國十五、十六年に發行された測圖とを用ひ、北支經濟統計季報、第二號(昭和十二年四月版)、山東省縣別戸口統計(昭和十一年二月現在)等を手懸りとして更に基本的な人口統計を調査利用したものである。

作圖に當つては dotmethod により聚落階級、戸數階級、人口階級について九階級を別ち人口分布並に密度圖を作成してゐる。

次にこの密度圖作成に當つて使用した資料、方法、成果を吟味してゐる。

山東省の人口密度を考察した場合に、九階級の第三階級までに所屬する高密度地帶は、純農業地帶の人口としては從來發表されてゐるものよりも過大に失する如く思はれるが、この地の農業の特殊性と關聯して考へるべきであると云ふ。

更に聚落構成については山東省平均聚落戸數一三七・三戸となし、これは自然村落戸數に近く、自然村落數と、行政村落數とを比較した場合の民國九年の村落數が聚落數の二倍となつてゐるのは過大なりとしてゐる。

人口密度を聚落密度より算出する時の一戸當り人口數を五・五人にしてこれを聚落戸數に乘じたが、この五・五人の判定には從來の發表資料を比較對照して採用したものである。

かくて本書に載せてある六箇の地圖は、山東省聚落(人口)密度圖、山東省聚落(人口)分布圖、縣別聚落戸數密度圖、縣別耕地利用百分率圖、山東省地理區域圖、山東省各縣位置圖である。此等の圖に表現される結果について山東省を地理的區域により山地部、平原部と別つて更にこれの夫々細別の說明がある。

現實の支那に對する科學的認識を絕對に必要とする折柄對支調査の諸機關より此の種の現地資料の提供されることは喜ぶべきことである。滿鐵調査部の今後の發表を大いに鶴首してやまない。(昭和十五年一月刊、南滿洲鐵道株式會社發行、菊判、三四頁、非賣品)

(北山　正邦)